

山口県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 6 名

立候補者数 : 5 名



氏名 中江 誠

都道府県士会 山口県

年齢 56

勤務先名称 青寿会武久病院



氏名 綿谷 昌明

都道府県士会 山口県

年齢 42

勤務先名称 宇部第一病院

協会・士会役員歴

日本理学療法士協会
代議員（平成7年～平成12年・平成18年～平成25年）

福岡県理学療法士会
理事（平成11年～平成13年）

協会・士会役員歴

平成13年度～平成16年度（社）	山口県理学療法士会	宇部小野田地区ブロック部長
平成17年度～平成20年度（社）	山口県理学療法士会	理事（ブロック局担当）
平成21年度～平成24年度（社）	山口県理学療法士会	理事 ブロック局長
平成25年度～平成26年度（社）	山口県理学療法士会	副会長 事務局長
平成26年度～	（一社）山口県理学療法士会	副会長 事務局長
平成28年度～	（公社）日本理学療法士協会	代議員

立候補の趣旨

今春の同時改定「以降」の理学療法士が果たす社会的な貢献とは、今以上に具体的で可視化されたものでないかと考えています。同時改定は、2025年の地域包括ケアシステム稼働の前年にもう一度来ますが、理学療法士の量的な拡大とそれに応じた院内および院外へ活動する場の一定の方向付けは、今改定でなされるものと解釈しています。未だ理学療法士にとっては不十分な改定ではありますが、今回示された改定の方向性を基盤としながら、次期改定（H32診療報酬・H33介護報酬）を視野に入れて、歩を進めていくことが求められていると考えています。そのためにH30改定以降、現場の私達は“自助”として具体的な行動を取ること、それと並行して日本理学療法士協会は、“共助”として適切な環境整備をすることが求められると思います。これからの日本理学療法士協会は、今まで以上に迅速で機動性の高い組織力をつけていく時代に入ったと考えています。代議員として現場での意見や要望が協会の政策として内外へ発信される際に、力強く後押ししたいと考えています。同時に、協会主導で行われる事業の方向性に対するガバナンスも併せ持った言動をしたいと考えております。理学療法士が、この一連の行動を実施することで、国民の“公助”へと繋がることを大切にしたい職責を果たしたいと思っております。

立候補の趣旨

2025年の地域包括ケアシステムの構築、2040年の理学療法対象人口減少等の社会背景を鑑みると、医療・介護・福祉・予防分野等における理学療法士の活用・職域の確保、ならびに質の担保は、重要な課題と言える。これからの10年間で我々理学療法士にとって非常に重要な期間であり、国民、理学療法士にとって有益な制度の整備、環境作りが強く望まれているところである。とりわけ、喫緊の課題でもある地域包括ケアシステム構築の推進は理学療法士の職域を確保するだけでなく、何よりも地域住民にいかに役立てるかが、社会から問われる命題と考える。そのためにも、都道府県理学療法士会は日本理学療法士協会とも強く連携を図り、協働して会員教育、地域・社会のニーズに対応できる組織体制構築、行政・他団体との渉外活動、地域に根ざした事業運営が必要であると考え。引き続き代議員として、理学療法士ならびに国民の皆様のために力を尽くす決意である。



氏名 砥上 恵幸

都道府県士会 山口県

年齢 57

勤務先名称 山口労災病院



氏名 宮野 清孝

都道府県士会 山口県

年齢 50

勤務先名称 下関市立市民病院

協会・士会役員歴

平成5年～17年 22年～現在 日本理学療法士協会代議員
平成19年～21年 日本理学療法士協会組織部長
平成25年～現在 日本理学療法士協会表彰委員長
平成15年～16年 日本理学療法士協会中国ブロック代表会長
平成5年～平成25年 山口県理学療法士会会長

協会・士会役員歴

平成13年～24年 山口県理学療法士会 理事(学術局担当)
平成22年～ 日本理学療法士協会 代議員
平成25年～ 山口県理学療法士会 代表理事
平成25年～26年 日本理学療法士協会 組織財政委員会委員
平成27年～28年 日本理学療法士協会 国際関連対策本部委員
平成28年 日本理学療法士協会 会館建設費活用検討特別委員会委員
平成29年～ 日本理学療法士協会 組織・規則等検証委員会委員
平成29年～ 中国ブロック理学療法士会 ブロック代表会長

立候補の趣旨

理学療法士の数の急増を組織的なパワーにするためには「日本理学療法士協会」の強力な職能的、学術的、そして政治的活動が求められます。そのためには、代議員の果たす役割は大きく、協会の定款や細則、諸規程を理解し、過去の出来事を踏まえ、さらに未来に向けた理想をしっかりと持つことが必要です。私は、日本理学療法士協会と山口県理学療法士会で長年活動してきました。その経験を生かしたいと思い代議員に立候補させていただきます。

立候補の趣旨

社会構造や疾病構造が変化していく中で、国民の保健医療に対するニーズは、年々高度化・多様化しています。理学療法は、これまでの疾患別リハビリテーション以外の領域にも、大いにその専門性を発揮すべきと考えます。また、地域包括ケアシステムの構築においては、高度急性期から在宅医療、健康増進や介護予防が重要視され、都道府県士会の市町単位での活動や、他団体との協働を推進していく必要があります。

刻々と変わる社会環境の中で、理学療法士が国民の期待を受け、それにしっかり応え、地域社会に貢献できる職種であるために、理学療法士の質をより高め、専門性を発揮する安定した基盤づくりを進めていかなければなりません。多くの課題が山積する状況ですが、日本理学療法士協会・都道府県士会が強い連携を図り、それぞれの組織力を強化していくことで必ず道が開けるものと思っています。

会員の皆様の声をしっかり受け止め、日本理学療法士協会、都道府県士会の発展と理学療法士の資質向上、そして国民の健康及び増進に寄与できるよう、全力を尽くす所存です。何卒よろしくご願い申し上げます。



氏名 山本 悟

都道府県士会 山口県

年齢 53

勤務先名称 YICリハビリテーション大学校

協会・士会役員歴

山口県理学療法士会 理事（平成15年4月～ 8期16年）
山口県理学療法士会 副会長（平成25年4月～ 3期6年）

立候補の趣旨

現在、地域包括ケアシステムを支える人材育成や、社会の要請に応えられる理学療法士の育成が喫緊の課題となっています。私は、平成15年より山口県理学療法士会の理事、平成25年より副会長（学術局長）として会員の生涯学習（新人教育プログラム修了率向上、認定・専門理学療法士取得推進）や学術研究の推進、山口県理学療法士会・各種研修会の充実などを通して理学療法士の人材育成に努めてまいりました。現在、協会では新たな生涯学習制度導入に向けた準備が進められ、国民の期待に応えられる理学療法士の質担保のためのシステムが構築されようとしています。新たな制度では士会のより主体的な役割が求められ、今後は協会と士会のさらなる連携強化が必要となってきます。「教育は国づくりの根幹」ともいわれますが、山口県理学療法士会においても、協会との連携のもと卒前卒後教育の体制強化と人材育成推進に取り組んでいきたいと考えています。また、理学療法士を取り巻く様々な課題について皆様方の声に耳を傾け、協会の事業に反映できるよう代議員として尽力したい考えです。